

# 事後評価対象事業の概要

平成19年9月  
北陸地方整備局

## 平成19年度 事後評価対象事業の概要

事業名	鵜渡路バイパス		事業区分	二次改築
事業箇所	自：新潟県岩船郡朝日村小川 至：新潟県岩船郡朝日村猿沢		延長 供用済	3.9km 3.9km
事業採択	昭和63年度	都市計画決定	-	
用地着手	平成元年度	工事着手	平成2年度	
完成に至る経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成7年度 - 小川・宮ノ下地区(L=1.1km) - 2車線供用</li> <li>・平成8年度 - 鵜渡路地区(L=1.4km) - 2車線供用</li> <li>・平成10年度 - 下中島地区(L=0.6km) - 2車線供用</li> <li>・平成14年度 - 上野地区(L=0.8km) - 2車線供用</li> </ul>			
事後評価該当基準	事業完了後一定期間(概ね5年)を経過した事業			
全体事業費	約103億円			
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積雪地域の路肩幅員や歩道幅員確保による地域生活環境改善</li> <li>・安全安心な広域道路ネットワークの形成</li> <li>・老朽橋の架替</li> </ul>			
<p>1. 費用対効果分析の算定基礎となった要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通量 整備前(S63) 4,133台/12h 整備後(H17) 5,591台/12h(約35%増加)</li> <li>・旅行速度 秋期平日: 整備前(S63,H2,H6年平均)36.5km/h 整備後(H17年)48.9km/h(12.4km/h向上) 冬期平日: 整備前(H2,H6年平均)23.7km/h 整備後(H17年) 36.9km/h(13.2km/h向上)</li> <li>・交通事故 現道部: 整備前(H4~H6平均)48.9件/億台扣 整備後(H15~H17平均)41.0件/億台扣 (平均7.9件/億台扣減少)</li> </ul> <p>2. 事業の効果の発現状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活力</li> <li>(1) 円滑なモビリティの確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス路線の利便性向上 村上駅~山北町(北中)間の路線バス所要時間短縮 整備前: 47分 整備後: 43分(約4分短縮、約1割短縮)</li> <li>(2) 物流効率化の支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・さけ、ますなどの農林水産物を主とする山北町・朝日村において、農林水産品の新潟市及び首都圏方面への輸送利便向上 勝木交差点~中条ICの所要時間短縮 整備前: 92分 整備後: 86分(約6分短縮)</li> <li>・水明橋が25t車両対応となり、新潟~鶴岡間の25t車両対応が確保され、物流ネットワークが強化</li> </ul> </li> <li>(3) 国土・地域ネットワークの構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接した日常活動圏の中心都市間を最短で連絡する路線を形成 村上地方生活圏(村上市役所)~庄内地方生活圏(山形県鶴岡市役所)所要時間短縮(秋期平日)整備前: 114分 整備後: 108分(約6分短縮)</li> <li>・路肩幅員(十分な堆雪幅)確保により、冬期における大型車すれ違い危険性の解消</li> <li>・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上 村上地方生活圏中心部(村上市役所)~山北町中心部(山北町役場)所要時間短縮(秋期平日)整備前: 60分 整備後: 54分(約6分短縮)</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>				

#### (4) 個性ある地域の構成

- ・「笹川流れ」や「温海温泉」など主要な観光地へのアクセス向上  
日沿道 中条 I C ~ 温海温泉(山形県鶴岡市)所要時間短縮  
(秋期平日)整備前：114分 整備後108分(約6分短縮)

#### ・暮らし

##### (1) 安全で安心できるくらしの確保

- ・三次医療施設へのアクセス向上  
山北町 ~ 県立新発田病院(新発田市)所要時間短縮  
(秋期平日)整備前：117分 整備後：111分(約6分短縮)

#### ・安全

##### (1) 安全な生活環境の確保

- ・現道交通量減少、歩道の設置・線形不良区間の解消等による生活環境の安全性向上
- ・歩道が無い又は狭小区間への歩道設置等の歩道整備による安全性向上

##### (2) 災害への備え

- ・老朽橋梁の架替による課題解消
- ・水明橋の耐震性が強化され、国道7号全線が災害時の第1次緊急輸送道路としての信頼性が向上

#### ・環境

##### (1) 地球環境の保全

- ・CO2排出量削減 整備前1,227t-co2/年 整備後1,177t-co2/年(約50t-co2/年削減)

##### (2) 生活環境の改善・保全

- ・NO2排出量削減 整備前10.76t/年 整備後8.84t/年(約1.9t/年削減)
- ・SPM排出量削減 整備前1.04t/年 整備後0.86t/年(約0.2t/年削減)

#### 4. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・日本海沿岸東北自動車道の(仮称)荒川 I C ~ (仮称)朝日 I C間について、新直轄方式による整備が決定
- ・平成20年4月に村上地方生活圏の5市町村が合併予定

#### 5. 今後の事業評価の必要性及び改善措置の必要性

- ・鶴渡路バイパスの整備により、旅行速度・安全性の向上、物流の効率化など整備に伴う効果が発現されており、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないと考えられる。

#### 6. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- ・特になし。

当該事業の整備による事業効果の時間短縮値は、当該区間を含むセンサス区間(延長13.8km)における整備前後のセンサス旅行速度結果による。